

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和6年9月19日（木）13時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・読書活動を推進するネットワーク「本よもうねっとMIE」を発足します
- ・県立夜間中学（みえ四葉ヶ咲中学校）の校章・マスコットキャラクターが決定しました
- ・「石薬師東古墳群63号墳出土の馬形埴輪」が東京国立博物館の特別展に選ばれました
- ・令和6年度高校生フェスティバルを開催します
- ・外国人児童生徒への日本語指導に係る指導者養成研修を実施します

質疑事項

- ・読書活動を推進するネットワーク「本よもうねっとMIE」を発足します
- ・県立夜間中学（みえ四葉ヶ咲中学校）の校章・マスコットキャラクターが決定しました
- ・「石薬師東古墳群63号墳出土の馬形埴輪」が東京国立博物館の特別展に選ばれました
- ・ホンダヒートの本拠地移転について

発表項目

○ 読書活動を推進するネットワーク「本よもうねっとMIE」を発足します

昨日各紙で報道がありましたように、今、各世代で読書離れが進んでおります。子どもたちにおいても、全国学力・学習状況調査の結果から、読書時間が年々減少している傾向も見てとれまして、対策が急務になっています。そこで、県教育委員会では、社会全体で子どもをはじめとしたすべての県民の読書活動を推進するネットワークとして、「本よもうねっとMIE」を発足させることといたしました。「本よもうねっとMIE」は、家庭や学校、地域の方々、企業、団体などが連携しまして、社会全体で読書の気運を高め、子どもをはじめとしたすべての県民の読書活動を推進していこうとする緩やかなネットワークです。構成団体となるのは、ご家庭の他、公立図書館、児童館・公民館、読書ボランティア団体、学校、書店、企業等で、今のところの会員数は170となっています。今年度末までに会員数500を目標としまして、会員拡大に取り組んでいきたいと考えています。つきましては、資料の2のところにありますように、「本よもうねっとMIE」キックオフイベントを開催いたします。日時は10月27日日曜日の午後、場所はスズカト、鈴鹿青少年センターのことでございます。そこで行います。イベントの内容については（4）のところにありますように、「ざんねんないきもの事典シリーズ」で知られていますが、今泉忠明さんによる記念講演、森のライブラリーのお披露目会等がございます。この森のライブラリーというのは、岡三証券さんから寄付金をいただきまして、四日市工業高校と久居農林高校

の生徒が製作しました移動式の本棚のことで、この日この場所で、高校生による報告会を行う予定です。ぜひ多くの方にご来場いただければと思います。

○ 県立夜間中学（みえ四葉ヶ咲中学校）の校章・マスコットキャラクターが決定しました

先日来公募しておりました、県立夜間中学みえ四葉ヶ咲中学校の校章、マスコットキャラクターのデザインがこのほど決定しました。資料1のところにありますように、応募総数は校章に168点、マスコットキャラクター182点でした。2の選定方法のところですが、まず教育委員会事務局で10点の候補を選定いたしました。次にその10候補について、教育委員、夜間中学設置検討委員、開校準備委員、夜間中学体験教室「まなみえ」の生徒や指導員など約80名が投票を行いまして、選定いたしました。選定したデザインはご覧のとおりでございます。校章は1点ですがマスコットキャラクターは、2点選んでいます。マスコットキャラクターは、「仲間」とか「多様性」を大切にしたいと考えておりますので、その趣旨で2点選んだものです。この校章は四葉のクローバーをモチーフにしておりまして、学校のめざす姿を表現しています。4色の葉っぱの色は「多様性」を表していて、3つの丸が就学する3学年を意味しています。マスコットキャラクターの「よつは」は四葉のクローバーの妖精で優しく、穏やかな性格、「リブロ」は四葉の妖精で引っ込み思案だが好奇心旺盛、とキャラ設定しております。あと4のところにありますように、マスコットキャラクターは今後、生徒募集案内やポスター等の印刷物、ホームページなどに活用していく予定です。三重県出身のイラストレーターであるヤスダズビトさんとのコラボイラストの制作も予定しています。

○ 「石薬師東古墳群63号墳出土の馬形埴輪」が東京国立博物館の特別展に選ばれました

この度、10月16日から東京国立博物館平成館で開催される特別展「はにわ」へ、三重県埋蔵文化財センターが保管しています「石薬師東古墳群63号墳出土の馬形埴輪」が全国から精選された埴輪120件のうちの1つとして展示されることになりました。詳しくは資料の4と5のところをご覧ください。今回の展覧会は、東京国立博物館が所蔵しております挂甲（けいこう）の武人と呼ばれる埴輪、写真があると思いますけれども、この挂甲の武人と呼ばれる埴輪が、これ埴輪の最高傑作と言われているものですが、この埴輪が国宝に指定されてから50周年を迎えることを記念して開催されるものです。展覧会会場には、挂甲の武人をはじめ、全国各地から選りすぐりの埴輪が120件集結します。「石薬師東古墳群63号墳出土の馬形埴輪」は、その120件の中でも注目される埴輪の1つで、展覧会のチラシがお手元にあると思いますけれども、そのチラシにも写真が掲載されていますし、あとこの馬形埴輪をモチーフとしたグッズの製作・販売も予定されています。この「馬形埴輪」は、平成5年度から8年度までに鈴鹿市石薬師町の三重県消防学校の設備整備に伴って実施した石薬師東古墳群の発掘調査で出土した埴輪です。全長約108cm、高さ81cmありまして、全体像がわかる馬形埴輪の中で、今のところ三重県最大です。特徴

は、頭から首にかけての頭を覆う被り物もしくは垂らしたたてがみと考えられる部分で、全国的に見ても類例がなく、きわめて独特の装飾と言えます。こうした学術的・芸術的な重要性から、平成 15 年には三重県指定有形文化財に指定されております。なお、今回の特別展埴輪に東海 4 県から選定された埴輪の作品が他にあるかどうかですけれども、三重県からは、もう 1 つ、先日来、国宝に指定されました松阪市の宝塚 1 号墳の船形埴輪のレプリカが出展され、あとは、今わかっている範囲では、静岡県浜松市辺田平（へたびら）1 号墳より出土の「鹿形埴輪」が出展されると聞いています。

○ 令和 6 年度高校生フェスティバルを開催します

県内の高等学校、特別支援学校高等部等の生徒が日頃の学習や文化芸術活動の成果等を発表する場である「令和 6 年度高校生フェスティバル」を 10 月 18 日（金）、19 日（土）、20 日（日）、26 日（土）に三重県総合文化センターと、イオンモール津南を会場に開催いたします。フェスティバルの内容は資料 1 の（1）から（5）の 5 本柱です。（1）として、「第 34 回三重県立高等学校産業教育フェア」です。生徒が実習作品の展示・実演や、販売・体験コーナー等の取組をとおして、学習成果を披露します。フラワーアレンジメント、ファッションショー、ロボット競技大会に加えて、飲食店や書店とコラボレーションした企画など盛りだくさんの内容になっています。それから（2）は、「第 45 回みえ高文祭」です。生徒が日頃の文化芸術活動の成果を、舞台や展示等で発表します。合唱、器楽、吹奏楽などの発表、美術・工芸、書道などの作品展示があります。また今年度は、小中学生をはじめ、より多くの県民の皆様楽しんでいただけるよう、生徒委員会企画によるスタンプラリーを開催します。次に（3）として「高校紹介ひろば」です。県内高等学校等の学校案内を展示・配付するとともに、県立高等学校入試制度に関する質問コーナーを設けます。そして（4）は、「三重県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」と「文化作品展」です。定時制通信制の生徒が生活体験の発表や文化作品の展示を行います。あと（5）は、「人権まなびの発表会」ということで、生徒が人権学習活動についての成果発表を行います。

○ 外国人児童生徒への日本語指導に係る指導者養成研修を実施します

この研修は、平成 28 年 3 月の中央省庁の一部を地方に移転する「政府関係機関の地方移転」の一環として、もともとは独立行政法人教職員支援機構が実施していた研修を三重県で実施することとなったもので、今年度は 8 回目の開催になります。10 月 8 日から 4 日間、三重県総合教育センターほかで実施し、全国から 107 名の教育関係者が受講生として集まります。主な研修内容は、外国人児童生徒教育、日本語指導等に関する講義や演習で、実践校の視察もあります。視察は 10 月 10 日、津市、四日市市の小・中学校、初期適応指導教室に分かれての実施となります。1 つだけ PR させていただきますと、資料の最後 6 その他のところに記載しておりますように、この研修は受講者の満足度が大変高くなっておりまして、令和 5 年度のアンケートでは 87.7%の受講者が、4 段階評価の最上位の評価である「大

変有意義であった」と回答しています。これは2番目の「概ね有意義であった」を加えると100%に達するというものであって、本年度も同様のスコアになるよう努めていきたいと考えています。

発表項目に関する質疑

○ 読書活動を推進するネットワーク「本よもうねっとMIE」を発足します

(質) 読書活動のネットワークですけれども、これ発足は27日付けということになるのですか。

(答) そうですね。10月27日で発足ということ。

(質) 今のところ170団体が会員で、500団体をめざすということですね。

(答) そうです。

(質) 構成団体ですけれども、このうち家庭というのは、どのように。

(答) 家庭は、個人という意味で、今個人として、会員になっているのは89名でございます。

(質) この個人というのはどういうことですかね。その方々は何をしておられて、どのような経緯で入っておられるのか。

(答 社会教育・文化財保護課) 読書活動推進事業をやっていく上で、いろいろつながりのある方ということで、学校司書の方とかで、個人という方もいらっしゃいますし、企業の方とか、いろんな幅広い分野の方です。

(答) 趣旨に賛同する方は、団体でも個人でも入っていただくということで、個人で入っていただいているということになろうかと思えます。

(質) 県民ということですかね。

(答) そうですね。

(質) 公立図書館なども全部県内の組織ですか。県外もあるのですか。今のところ170団体ありますが。

(答 社会教育・文化財保護課) すべて県内の団体です。

(質) 500も、それ全部県内でなければならないというわけではないのですか。県内で。

(答) 県内県外とこだわっているわけではないのですけれども、我々としては、やってほしいのは子どもたちを中心にその周りに本がたくさんある環境を作ってほしいということに依頼していますので、やはり県内の方が中心ということになろうかと思えます。

(質) 具体的にですけど発足式はともかくとして、今後その活動として具体的にどのようなことを想定していらっしゃるでしょうか。

(答) これ大きく3つありまして、1つは、それぞれの立場で、可能な範囲の読書活動を展開していただくというのが1つでございます。その中でも、連携していろいろやっていただければと思っています。例えば、地域の作家とか読書ボランティアと連携しておはなし会を開催するとか、企業や他の団体からの寄贈を受けて、本棚の充実を図るとか、

いろいろな会員間のネットワークの中で、それぞれの立場で可能な範囲の読書活動を推進していく、これが1つ。それから2つ目は情報の共有で、図書館とか児童館、書店でのイベント開催等の取組を、私どもが「本よもうねっとMIE」の公式ポータルサイトに掲載して発信させていただくという情報発信の取組。そして3つ目が、ブックドライブと呼ばれるものです。読まなくなった本とか、不要となった本を廃棄せずに、寄付してもらって、新しい読み手に届ける取組を、こういったネットワークの中でやっていこうという形です。先ほどから申し上げたように、子どもたちの周りに本がたくさんある状況を、みんなで作っていくということをめざしています。

(質) ポータルサイトは、いつ頃設ける予定なのですか。

(答 社会教育・文化財保護課) 見ていただくことはもうすでに可能でございます。別紙1のポータルサイトの二次元コードからご覧いただける形になっております。

(質) 本がたくさんある状況をめざしているということですが、教育長としては本がたくさんある状況でもって、将来的にどのような姿を描いておられるのかというのはいかがですか。

(答) 特に自分が気になっているのは、子どもたちの読書時間がどんどん減ってきているということで、このコロナ禍を背景にかなり減ってきている状況でございます。どうしてもスクリーンタイムに取られてしまうところがあって、それにしっかりと対策を打っていきたくて思っております。子どもたちがいろんな場で、例えばこども食堂が最近多いですけども、こども食堂に行ったら周りに本がたくさん置いてあったとか、医者に行ったらその待合室に本がたくさん置いてあったとか、そういうものをしっかり環境として作って行って、子どもたちの読書時間が減るのを抑えていければと考えています。

(質) 読書に特化して関係機関が連携する組織を発足するのは初めてですかね、県教委としては。

(答) 県教委としては初めてですし、全国的には。

(答 社会教育・文化財保護課) 他県の方で、そういったネットワークがあると聞いておりますが、企業まで入れたネットワークかどうかまではちょっと確認はできていないです。

(答) あまり全国に多くはないと思われまして。

(質) 少なくとも県教委が設けるのは初めてということになりますね。

(答) そうです。

○ 県立夜間中学(みえ四葉ヶ咲中学校)の校章・マスコットキャラクターが決定しました

(質) 夜間中学の校章とキャラクターの決定についてお尋ねしますが、これそもそも校章だけでなく、キャラクターも決めようというふうなのも、当初の段階から検討されていたことなのですかね。

(答) 検討していただきました。やっぱり親しみを持っていただきたいですし、やはりここに四葉

ヶ咲中学校という夜間中学があることを、県民の皆さんに発信したいということもありますので、こういったマスコットキャラクターを作って、皆さんにアピールしていこうということは考えていました。

(質) 県内の学校で、学校独自のキャラクターを設定しているというのは例があるのでしょうか。

(答 高校教育課) 県立学校において、みえ四葉ヶ咲中学校のようにマスコットキャラクターを募集した事例はありません。各学校においては、イメージキャラクターやマスコットキャラクターという名称で、公式・非公式キャラクターを含め、生徒会や部活動等で発案されたキャラクターを広報物に使用されている事例はあります。

(質) 応募はどのような方を対象にされてたんでしたっけ。校章とキャラクターのデザインの応募は。

(答 小中学校教育課) 県民だけではなく、どなたでも。

(質) どなたでもでしたね。キャラクターを2点選んだ意味はどのようなところにありますか。

(答) やっぱり「多様性」という意味で、違うイメージのキャラクターを選びたかったというのがあるのと、「仲間」を大事にしたいということで、1つの単一のキャラクターよりは、2つ複数のものの方がいいだろうという判断です。

(質) これ当初から2つ選ぼうということだったのですか。

(答 小中学校教育課) 当初は1つの予定でした。ただ、1つと決めていたわけでもなく、いろんな選ぶ過程で、それぞれいろんなキャラクターがいるということのよさであるとか、体験教室「まなみえ」で学んでいる、選んでいた生徒が仲間を大切にしたいという思いから2つ選びました。

(答) 選ぶ過程で2つにしたということになります。

(質) 投票の結果の上位2点ということなのですね。

(答) そうです。

(質) 「リブロ」というのはどういう意味になりますかね。

(答) 「リーフ」の「リ」と「ブラッサム」の「ブロ」だと聞いています。葉と咲くです。本当は「ブラッサム」かもしれないですけど「ブロ」と読まして「リブロ」です。これは応募者からの名称そのままですね。

(質) 本じゃなくて。イタリア語で本。さっきの本の話とは違うのですよね。

(答) はい。

(質) 教育長としてキャラクターの感想をちょっと。

(答) まずたくさん応募をいただき感謝申し上げます。結構愛されるキャラだと思いますし、校章もめざす姿がちゃんと表現されているなど思っていますので、よいものを選んでいただいたかなというふうに感じています。このマスコットキャラクターも、全くイメージの違うものが選ばれているので、多様性という意味ではよく表現されているかな

と思います。

(質) このキャラクターですけど、どのような機会に活用していくかというのを具体的に。

(答) 生徒募集案内、それからポスター等の印刷物、ホームページ、SNS、それから学びを応援するサポーター「クローバーズ」というのを作ろうと思ってるんですけども、その皆さんに配付するステッカー、それから三重県出身のイラストレーターとコラボしてオリジナルのイラストを制作していくということを考えています。

(質) ちょっと2点お聞きしたいのですが、まずこの校章とマスコットキャラクター、言える範囲で結構なのですが、どんな方が描かれたのかなという。

(答) 校章は山形県在住の70代の男性です。この方は、名前は控えさせていただきます。それから、「よつは」は岐阜県在住のグラフィックデザイナー、角谷隆志(かくたに たかし)さん、30代男性です。「リブロ」は、北海道在住のクリエイター、心天地(しんてんち)さとしさん、40代男性です。

(質) 皆さん県外ですけども、どういった思いで描かれたとか、何かバックグラウンドとかに共通項があればいいなと思ったのですけど。

(答) ちょっと把握できておりません。

(質) あと、「クローバーズ」のもう少し詳細なご説明をいただいてもいいですか。

(答 小中学校教育課) 今後、このみえ四葉ヶ咲中学校を広くアピールしていただける方ということで、個人の方であったりとか、団体、会社等、そういったところで、会社の窓口で紹介してもらえるものを貼っていただいたりとか、お店の窓口のところに貼っていただいたりとか、みえ四葉ヶ咲中学校をアピールしていただける、そういった協力いただける方を、クローバーズという名称で募集したいと考えています。

(質) いつごろからスタートですか。予定でもいいのですけれども。

(答 小中学校教育課) すでに募集は始めております。広報ももちろんですし、開校後にお店等を校外学習の体験の場を提供していただいたり、いろんな形で応援していただける方がいます。随時、募集しています。

(質) この校章とマスコットキャラクターの画像は、それぞれ記者クラブに、USBメモリか何かで提供していただくことはできますか。

(答) 提供させていただきます。

(質) マスコットの着ぐるみみたいなものを作るご予定は。

(答) 今のところ、予定はないです。ひょっとしたらそうなるかもしれませんが。

(質) この校章のコンセプトとかキャラクターのセレクトとかそういうのは、応募された方のものですか。

(答) 応募された方の発想です。

(質) 書かれた方はプロの方だったようで、これを原案から何か修正されたりしたわけではなくて、完全にその方によるデザインをそのまま使っていますか。

(答) 修正はしていません。

○「石薬師東古墳群63号墳出土の馬形埴輪」が東京国立博物館の特別展に選ばれました

(質) 石薬師東古墳群の東京国立博物館の特別展ですけど、この埴輪が展示されるに至った経緯ですけど、詳細にどういったことをされていたのか。何か要請があったとか、アピールしていたとか。

(答 社会教育・文化財保護課) これは東京国立博物館の方からの依頼ということで、今回出品されることになりました。この馬形埴輪につきましては、先ほど説明がありましたように、形状、頭がおかっぱのようになっているのか、被り物のようになっているのかわかりませんが、そういったものが全国的に類例のないものであり、かつ、装飾が非常に精密にできているということで有名な埴輪でございますので、そういった理由で選定され、声がかかりました。

(質) 例えば、向こうの担当者がどのような経緯で知っていたとか、何かそれ以前にこういった国立博物館と連携していたとか、そういった背景とかは特にありませんか。

(答 社会教育・文化財保護課) この馬形埴輪は知られている存在で、かなり話題にもなっておりまして、それで向こうからオファーが来たというふうに考えております。

(質) 国立博物館で県内の所蔵品が展示されるというのはいつ以来ですか。

(答) これは県の所有のものでいくと、平成30年6月に開催された特別展「縄文ー1万年の美の鼓動」というのがあったのですけれども、その時に、うちの埋蔵文化財センターに保管しています、粥見井尻(かゆみいじり)遺跡出土の土偶が展示されたことがございます。ただ市町の他の展示物に関しては、私どもには記録がないのでわからないという状況です。

(質) この埴輪が県外に展示されることについては、初めてですか。

(答) この埴輪はともかく、ほぼ毎年、県外の博物館等での展示に我々の持っているものの貸出を行っておりますけれども、ここまでクローズアップされるというのは珍しいことになります。この埴輪自体は外に行ったことがありますか。

(答 社会教育・文化財保護課) 詳しいデータはございませんけれども、県外での展示等があったと思いますし、出土したときの注目もありまして、発掘の最前線である東京国立博物館を含めて、全国を回る展示が文化庁の方で開催されており、確か出展していたと思います。

その他の項目に関する質疑

○ ホンダヒートの本拠地移転について

(質) 先ほど、ラグビーのホンダヒートが2年後にホームを移転することを発表しましたが、県内でも数少ないプロスポーツチームがなくなるということで、まずちょっとお受けとめをお聞きしたいのと、プロスポーツチームは地域の子どもたち、例えばスポ

ーツの振興であったりとか、健全な発育のため、何かそういった活動をいろいろとされていると思うのですけれども、そのあたりの影響についてどうお考えですか。

(答) 教育委員会として一番すぐに思い当たるのは、ホンダヒートは、我々のいじめ根絶の取組にいつも協力していただいております、街頭での啓発活動とか、いつも一緒に行っていたので、それが今後は来られなくなるというのは、非常に大きなことだと思っておりまして、残念に感じています。またおっしゃっていただいたように、プロのスポーツチームというのは、やっぱりスポーツをする子どもたちに夢を与えていただく存在ですので、それが遠い存在になってしまうというのは、また残念なことだと思いますけれども、全く三重県と関係がなくなってしまうわけではないとも聞いておりますので、これからもいい関係を保つことができるといふ思いは持っております。

(質) 今の段階でホンダヒートさんから、例えばこういう活動を継続するみたいなそういう連絡とかは。

(答) その辺は、私どもには連絡が入っておりません。

以上、14時01分終了